

執筆 者 紹 介 — 生年・出身地・現職・著作 —

野本寛一(のもと かんいち) 一九三七年、静岡県生まれ。近畿大学名誉教授。『暮らしの伝承知を探る』(共著、玉川大学出版部、二〇一三年)、『自然災害と民俗』(森話社、二〇一三年)、『自然と共に生きる作法』(静岡新聞社、二〇一二年)、『地霊の復権 自然と結ぶ民俗をさぐる』(岩波書店、二〇一〇年) ほか。

胡桃沢勳司(くるみさわ かんじ) 一九五一年、長野県生まれ。近畿大学文芸学部教授・同民俗学研究所所長。『西日本庶民交易史の研究』(文献出版、二〇〇〇年)、『牛方・ボツカと海産物移入』(岩田書院、二〇〇八年)、『近世海運民俗史研究—逆流海上の道—』(芙蓉書房出版、二〇一二年) ほか。

戸井田克己(といだ かつぎ) 一九六〇年、東京都生まれ。近畿大学総合社会学部教授・同民俗学研究所所員。『武蔵村山市史 民俗編』(共編、ぎょうせい、二〇〇〇年)、『日本の内なる国際化』(古今書院、二〇〇五年)、『近畿を知る旅』(分担執筆、ナカニシヤ出版、二〇一〇年)、『高等学校新地理A』・『新詳地理B』(共著、帝国書院、二〇一〇年) ほか。

網伸也(あみ のぶや) 一九六三年、大阪府生まれ。近畿大学文芸学部教授・同民俗学研究所所員。『平安京造営と古代律令国家』(塙書房、二〇一一年)、『経塚考古学論攷』(共著、岩田書院、二〇一一年)、『仁明朝史の研究—承和転換期とその周辺—』(共著、思文閣出版、二〇一一年) ほか。

藤井弘章（ふじい ひろあき）一九六九年、和歌山県生まれ。近畿大学文芸学部准教授、同民俗学研究所所員。『熊野川町史 通史編』（共著、和歌山県新宮市、二〇〇八年）、『丹生都比売神社史』（共著、丹生都比売神社、二〇〇九年）、『人と動物の日本史』四（共著、中村生雄・三浦佑之編、吉川弘文館、二〇〇九年）、『高野町史 民俗編』（共著、高野町、二〇一二年）ほか。

井田泰人（いだ よしひと）一九六九年、大阪府生まれ。近畿大学短期大学部教授。『大手化粧品メーカーの経営史的研究』（晃洋書房、二〇一二年）、『熱き男たちの鉄道物語』（共著、ブレーンセンター、二〇一二年）、『歴史に学ぶ経営学』（共著、学文社、二〇一三年）ほか。

岩間剛城（いわま こうき）一九七三年、福島県国見町生まれ。近畿大学経済学部准教授。『信州上田藩上塩尻村永統譜に関する一考察―奥印帳を手がかりとして―』（『東北学院大学経済学論集』第一七七号、二〇一一

年）、「大正期における地方信託会社の展開―福島県伊達郡梁川信託株式会社を事例に―」（『経営史学』第四一巻三号、二〇〇六年）ほか。

吉野なつこ（よしの なつこ）一九八四年、兵庫県生まれ。関西大学大学院博士課程後期課程・大阪市遺産研究センターリサーチ・アシスタント。「ハナフリの分布と形態―兵庫県を中心として―」（『関西大学博物館紀要』第二〇号、二〇一四年）、「民俗写真家としての三村幸一」（『大阪都市遺産研究』第四号、二〇一四年）ほか。

藤田義成（ふじた よしなり）一九五九年、鹿児島県生まれ。近畿大学文芸学部事務部（民俗学研究所）職員。「東広島ニュータウン遺跡群新住西一・四地点遺跡調査報告書（一九九二年）」、「小若江遺跡第六次発掘調査報告書（二〇一〇年）」ほか。

鶴見太郎（つるみ たろう） 一九六五年、京都市生まれ。早稲田大学文学学術院教授。『座談の思想』（新潮社、二〇一三年）、『柳田国男入門』（角川書店、二〇〇八年）、『民俗学の熱き日々 柳田国男とその後継者たち』（中央公論社、二〇〇四年）『柳田国男とその弟子たち 民俗学を学ぶマルクス主義者』（人文書院、一九九八年）ほか。

渡辺良正（わたなべ よしまさ） 一九三三年、福岡県生まれ。毎日新聞東京本社出版写真部（一九六四—六六年）勤務後フリーとなり、日本国内の祭り、神事芸能、民俗芸能の取材に専念。現在、日本写真家協会会員、民俗芸能学会評議員。主たる写真集に、『椎葉神楽』（平河出版社、一九九六年）、『沖繩先島の世界』（木耳社、一九七二年）、『日本の祭り 山車と屋台』（サンケイ新聞社、一九八〇年）、など。